

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第8週 (2/16-2/22) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	8週	7週	6週	5週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	4	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数  
「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 2/9-2/15 7週
		注意報	2/16-2/22	2/9-2/15	2/2-2/8	1/26-2/1	
			8週	7週	6週	5週	
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	3 0.17	9 0.50	8 0.44	23 0.17
	咽頭結膜熱		2 0.11	3 0.17	1 0.06	1 0.06	25 0.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		53 2.94	70 3.89	44 2.44	41 2.28	400 3.01
	感染性胃腸炎		115 6.39	130 7.22	116 6.44	131 7.28	918 6.90
	水痘		4 0.22	7 0.39	4 0.22	8 0.44	60 0.45
	手足口病		1 0.06	0 0.00	1 0.06	0 0.00	12 0.09
	伝染性紅斑	→	11 0.61	11 0.61	12 0.67	9 0.50	72 0.54
	突発性発しん	○	15 0.83	10 0.56	12 0.67	14 0.78	53 0.40
	百日咳		1 0.06	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		3 0.17	6 0.33	4 0.22	0 0.00	43 0.32
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		198 7.07	255 9.11	469 16.75	762 27.21	2,670 12.54
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		3 0.60	4 1.00	2 0.40	9 1.80	15 0.47
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	1 1.00	1 1.00	1 1.00	2 0.22

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	画像診断	劇症型溶血性	男性	50歳代	病原体の検出
結核	女性	30歳代	IGRA検査	レンサ球菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出
結核	女性	60歳代	画像診断	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	40歳代	病原体の検出
結核	女性	80歳代	画像診断	水痘(入院例)	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	80歳代	病原体等の検出	播種性クリプトコックス症	女性	70歳代	クリプトコックス荚膜抗原検出等

\*結核5件(27)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2件(2)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(8)、水痘(入院例)1件(1)、播種性クリプトコックス症1件(1)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

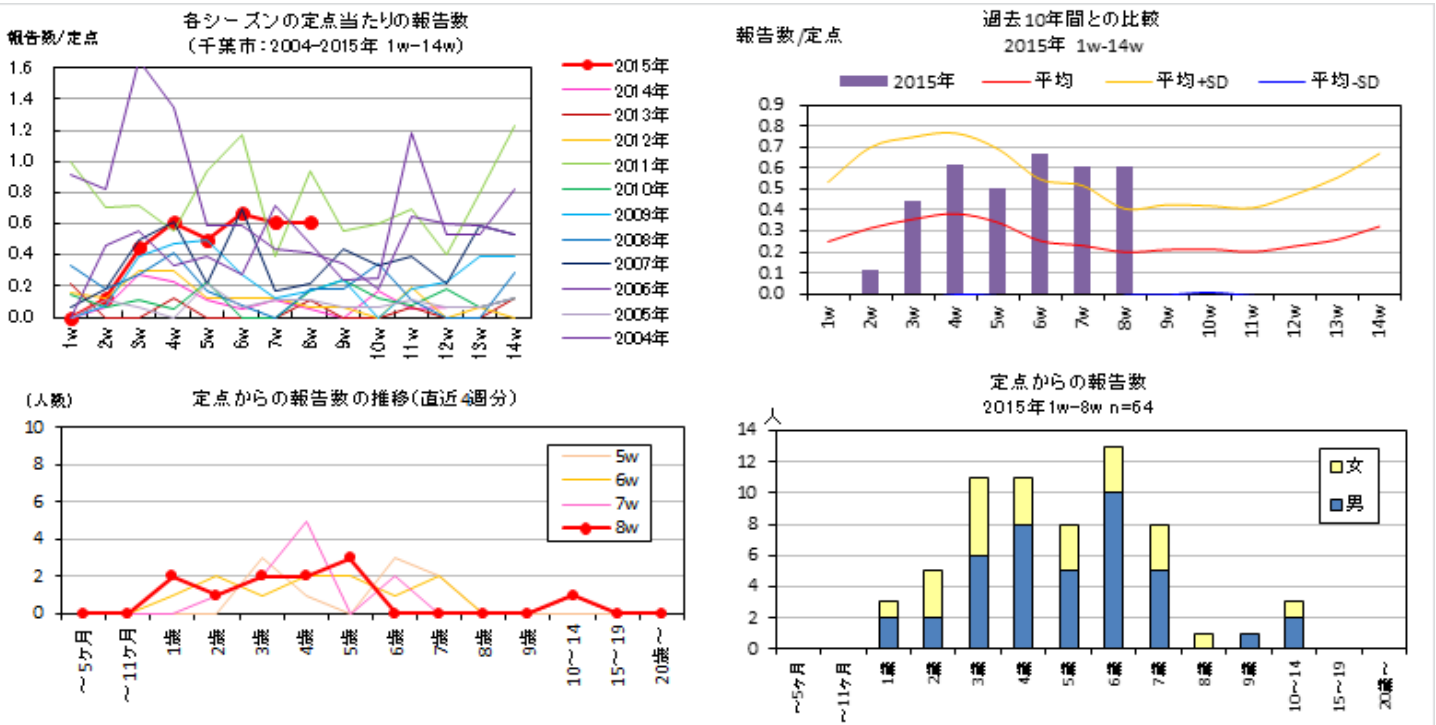
### 定点当たり報告数 第8週のコメント

<伝染性紅斑>前週から横ばいで0.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。  
<突発性発しん>前週より増加し0.83となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

＜伝染性紅斑＞

全国レベルの2015年第7週現在は、前週より減少しましたが過去8年間の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では、東日本及び九州で多く、神奈川県、石川県、東京都の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第8週は、前週から横ばいで0.61となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、中央区及び稲毛区(共に1.00/定点)で最多で、一年代当たりでは中央区で4歳及び5歳、稲毛区では1～3歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第8週現在の累積報告数(n=64)によると、性別では男性が64.1%(41名)、女性が35.9%(23名)で、年齢階級別では6歳(20.3%:13名)、3歳及び4歳(共に17.2%:11名)の順に多くなっています。



＜突発性発しん＞

全国レベルの2015年第7週現在は、過去8年間の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、宮崎県、熊本県、徳島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じとなっています。千葉市の2015年第8週は、前週より増加し0.83となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況では、稲毛区(2.67/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生が報告されました。他区では1.0未満となっていますが、稲毛区で取り分け多く報告されています。2015年第1週から第8週現在の累積報告数(n=80)によると、性別では男性が53.8%(43名)、女性が46.2%(37名)で、年齢階級別では1歳(55.0%:44名)、6～11か月(25.0%:20名)、2歳(10.0%:8名)の順に多くなっています。

